

直方市議会議員 《2025年1月号》

やすなが浩之 市政レポート

スピードに
誠意あり

新幹線新駅設置に向けた検討をスタート

2024.6.1 市報のおがた・令和6年6月1日号

「新幹線新駅設置に向けた検討をスタート」を掲載

市は、1991年1月に策定した第3次直方市総合計画マイタウン2001において、福岡市・北九州市両都市圏の接点に立つ交流都市を目指し、新幹線新駅設置構想を掲げました。その後、検討を進めましたが、多額の事業費を要することから2007年に新駅設置構想は凍結しました。ただし、構想については今でも持ち続け、2021年に策定した第6次直方市総合計画に引き継がれています。一度は構想を凍結しましたが、その後植木地区には直鞍産業振興センターが開業し、さらには近接する地区に鞍手インターチェンジが開設。今年度からは、福岡県による直方・鞍手産業団地の造成が始まるなど、再び機運が高まってきました。市では今後、植木地区にデータセンターを企業誘致に注力していくことから、福北ゆたか線と新幹線が交差する同地区への新駅設置について、再び検討を始めました。



市報の記事は
QRから



2024.12.4 直方市議会・12月定例会一般質問

「新駅設置についてのビジョン策定」を要望

市庁舎内に留まらず、専門家の意見も加えながら、市民や周辺自治体にとって将来の希望に繋がる現実的で説得力のある計画を早期に作り上げていただきたいと考えている。そのための予算が当然必要であると感じるほか、「新幹線新駅期成会準備室」などの組織を都市計画課や商工観光課内に新設する検討を行っていただきたい。令和7年度末に直方・鞍手新産業団地が造成完了し、令和13年度に天神橋の架け替えが完了予定。今後10年間は本市にとって大きな変革期であり、植木地区の産業活性化がこの街の未来を左右するといっても過言ではない。

その時代にどんなビジョンを描くのか、造成完了した産業団地にデータセンターが誘致され、高速・安定なビジネス環境が整い、筑豊高校跡地等の遊休地に新電力などの企業立地が進む。更には、データセンターを中心とする周辺施設に多方面から多くの技術者・管理職・セキュリティ専門家、そして関連する業種の労働者など、多岐にわたる職種の人材が集まり、植木地区の広大な平地に台湾をはじめとする諸外国の最先端企業が集積するといったサイエンスパーク構想が現実味を帯びてくる。その間に、福岡・小倉といった両都市圏だけではなく、TSMCが立地する熊本や中国四国、そして関西関東との人材交流、輸送の重要な基点として新幹線新駅計画が進み、天神橋の架け替えと同時期に完工し、周辺自治体の活況を牽引する中



継地点として直方市が新たな役割を果たしていく。

一般質問の内容はQRから

そういったビジョンを描き、市民の皆様と夢や希望のある未来を見据えていきたい。

点ではなく線で物事を考え、説得力を持った壮大なビジョンを市民の皆様様に提示していただければと切に願うとともに、市民の皆様にご理解いただき同意をいただくためにも、情報発信の強化を要望する。



2002.4.1
「直鞍産業振興センター」開業

2024.1.1 市報のおがた・令和6年1月1日号
「新幹線新駅の設置と筑豊電気鉄道の延伸」を掲載

2011.2.19
「鞍手インターチェンジ」開通

2023.6.23 令和5年6月定例会・市長所信表明
「植木地区の新幹線新駅の検討」を表明

県と連携の上、直方・鞍手新産業団地の造成を進めつつ、データセンターなどの誘致の実現に全力を挙げて取り組みます。さらに、このことを契機に、福北ゆたか線と新幹線が交差をいたします植木地区の新幹線新駅など、新たな都市づくりについて検討をまいります。

また、筑豊電気鉄道の延伸の可能性についても引き続きの課題とし、本市の強みである交通の要衝としての機能強化を具現化するため、本市の将来の発展に向けた方策を探ってまいります。

2024.3.28 中央大学経済学部教授による講演会
「直方宗像線沿線の広域交通を考える勉強会」を開催

山陽新幹線の小倉～博多間は実キロベースで55.9kmあり、新幹線の駅間距離としては、青函トンネルを通る北海道新幹線・奥津軽いまべつ～木古内間の74.8kmと東海道新幹線・米原～京都間の68.1kmに次いで長いことから、本市だけではなく周辺エリアも含めた交通利便性の向上における新駅建設の合理性と正当性が認められる。

2024.10.11 (公財)九州経済調査協会常務理事兼事業開発部長による講演会
「山陽新幹線新駅(東福岡駅(仮称))設置に関する勉強会」を開催

- 博多までの1時間20分から1時間程度短縮され福岡空港も30分程度となり、小倉まで1時間弱程度から30分程度短縮されることで、成長点である福岡都市圏、北九州市の受け皿、ベッドタウンや高度都市機能立地となる可能性がある。
- 山陽新幹線への乗り入れによる山陽・関西との観光・ビジネス交流の拡大に繋がる。
- 九州新幹線への乗り入れによる九州南北軸との連携強化に繋がり、特にTSMCの立地で活況を呈する熊本との時間距離が1時間圏内となる。
- 地域開発(商業・まちづくり・産業団地など)の新たな核を形成できる可能性がある。
- グローバル企業の事業拡大や新規誘致の可能性に加え、人材獲得力を高められる可能性がある。

令和7年度末まで直鞍の2市2町と宗像市で県への要請・働きかけを行うための
「期成会」を設立

令和7年度当初
直鞍の2市2町と宗像市で
期成会を立ち上げるための
「準備会」を設立

2024.6.20
直方市議会・6月定例会一般質問
「早急に具体的な取り組みを始めていただくこと」を要望

一般質問の内容はQRから



2024.9.12
直方市議会・9月定例会一般質問
「期成会立ち上げと市民への情報発信に尽力いただくこと」を要望

一般質問の内容はQRから



発行人：直方市議会議員 安永 浩之

連絡先：やすなが浩之市議会議員事務所
住所：直方市知古1丁目6番1号
メール：info@h-yasunaga.jp
電話：0949-28-8087

↑携帯電話転送で、いつでも相談を受け付けています。

バックナンバーは公式HPをご覧ください
ホームページ <http://h-yasunaga.jp>

やすなが浩之

検索



ブログ



Facebook



LINE

ト
ッ
プ
ニ
ュ
ー
ス



直方市議会議員

やすなが浩之【4つの重点政策】

地域と地元企業の活性化

◆プレミアム商品券事業

消費需要喚起を目的とし、プレミアム率20%、発行総額1億2千万円の地域商品券を発行する事業を行いました。市民の皆様を優先して販売し、「共通券」「地域券」の2種類セットを発行しました。

◆工業団地適地調査業務

企業誘致の機会を逃さず、新たな工業用地を確保するため、工業用地の適地調査を実施するもので、まずは開発可能な区域を10カ所程度抽出した後に3カ所程度に絞り、候補地を選定します。

◆直方市まちなか創業等支援補助金制度

地場産業の振興と地域経済の活性化を目的として、市が指定する一定の区域内で創業する方、また新しく事業を開始する方、事業を拡大しようとする方を応援するための補助金制度を設けています。

◆直方市合同企業説明会開催

直方で働きたい「人」と「企業」をつなぐイベントとして、市内企業による、域内高校生を主な対象とした、合同企業説明会を開催しました。

医療福祉環境の充実

◆フレイル予防教室

フレイル予防のためには、「運動で筋力づくり」「低栄養予防」「お口と歯の健康」「外出と交流」の4つの柱が重要です。定期的に予防教室を開講しています。

◆認知症啓発のための公開セミナー

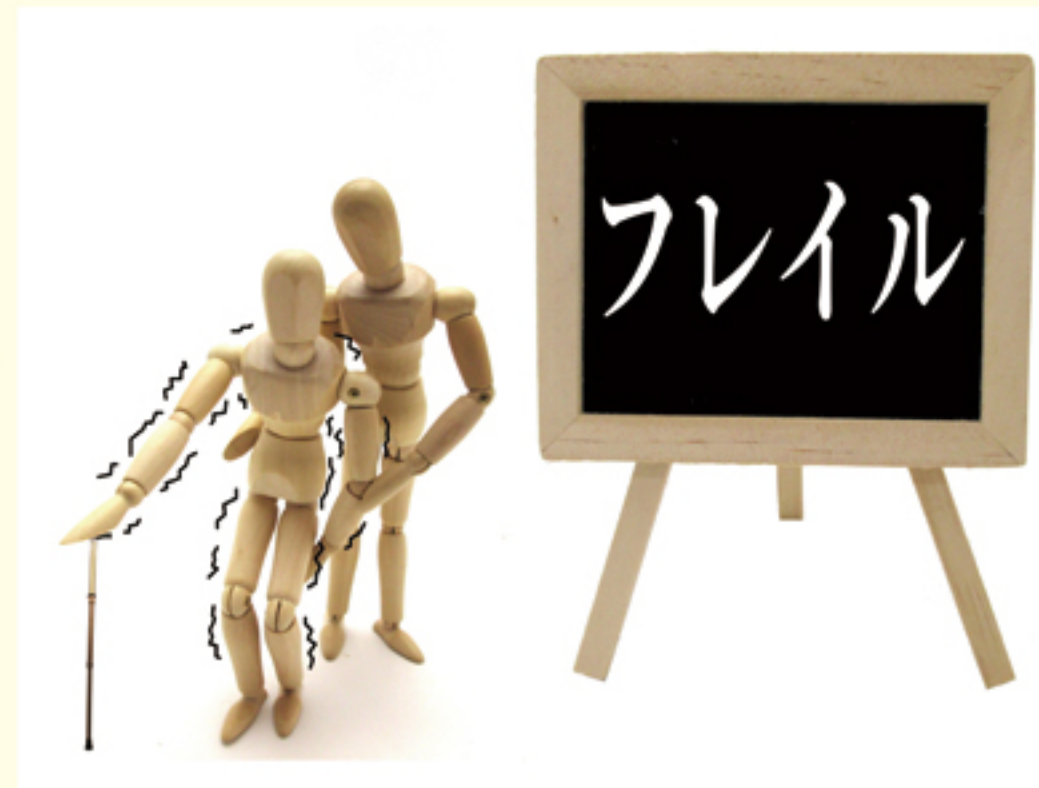
地域に広く認知症についての周知啓発を行うため専門家を招き公開セミナーを開催しています。

◆高齢者のためのミニしごと合同説明会

高齢者を求人している企業・事業所が参加し、採用担当者から求人内容に関する話を直接聞ける説明会を開催しました。

◆長寿のお祝い敬老祝い金

毎年9月に長寿のお祝いとして敬老祝い金をお贈りしています。また、100歳の人には国・県からも記念品が贈呈されます。



皆様にお約束した政策に関して

本市の状況を報告します!

子育て環境の整備

◆直方市こども家庭センター、のおがた子育てガイド

令和6年4月1日に「こども家庭センター」を設置しました。また、「のおがた子育てガイド」には、子育てに関するさまざまな情報を掲載しています。

◆のおがた子育て応援アプリ

令和6年9月1日より母子健康手帳アプリ「母子モ」を活用し、妊娠から出産、子育てに役立つ様々な情報を配信しています。

◆グローバル人材育成事業

国際的な視野を持つグローバル人材を育成するために、中学生を対象に海外派遣を行い、自然体験と異文化交流を通じて、フィンランド流の起業家マインドを学ばせる事業を実施しました。

◆スポーツ等教育分野推進事業

スポーツを通じた地域振興をはじめ、市民の健康寿命の延伸や青少年の健全な育成を目的に、バレーボールチーム「カノアラウレアーズ」の宮地佳乃さんを地域おこし協力隊隊員として任命しました。

災害対応力の強化

◆遠賀川直方地区築堤護岸工事

遠賀川左岸における直方市街部(日の出橋から勘六橋)では、計画堤防高が最大0.65m不足しているため、最大1.00mの嵩上げ工事を令和6年度から令和8年度にかけて実施中です。

◆直方市職員定数条例の一部を改正

救急出場件数の大幅な増加等に伴い、市民生活の安全や消防職員の労務環境改善を目的として、消防職員の定数を62人から68人に変更するための条例改正を行いました。この条例は、令和7年4月1日から施行され、順次消防職員の募集・現場配備を行っていきます。

◆災害時情報共有システムの運用開始

災害時、市に寄せられる各種データの集約迅速化及び市民に対する正確かつ迅速な情報提供のため、市内の避難所情報・被害情報・水位センサー設置20箇所の水位情報を取得できるシステムを開発し、市の対策本部での運用及び市民向けの公開を始めました。



【直方市の大型事業】直方市が現在着手している事業、今後、実施予定の事業についてご紹介します。

① 新幹線新駅設置に向けた検討

表面のトピックスで取り上げた通り、令和6年度より本格的な検討が再スタートしました。市報で大々的に取り上げ市民の皆様への周知を行う一方、各方面の専門家を講師に迎えた勉強会を開催し、県議会議員、近隣自治体の首長、議員、商工会議所および商工会、福岡県担当部署などから多数の参加をいただいています。来年度は、市の考える新産業団地周辺の産業振興施策と新幹線新駅の設置を一体的に捉えたビジョン策定について必要に応じて調査費等の予算計上を行い、県への要請・働きかけを行うための「期成会」を立ち上げる予定です。

② 直方・鞍手新産業団地の造成

市の長年の計画であった植木地区の産業団地計画について、データセンターなどの誘致を目指し、県と鞍手町とともに造成事業を行うこととなりました。現在、県による造成事業に着手しています。

③ 天神橋架け替え

築約88年が経過し老朽化が激しく、交通渋滞も頻繁に発生していることから、早期の架け替えが必要な橋梁です。現在、県が架け替えの計画を行っています。

④ (仮称)直方市保健福祉センターの建設

中央公民館周辺に建設する方針を軸に検討を行った結果、中央公民館敷地内に存在する健康福祉課別館、男女共同参画センター本館、同別館の3施設を解体し、その跡地に建設する方針となりました。現在は、予定敷地内にある民地の移転補償協議と健康福祉課別館等の建物の解体設計を終え、現在、解体工事に着手しております。

